

# 人材育成の ヒント Vol.2



## 一人材育成のヒントとは

こんにちは、高度専門教育訓練センター人材育成担当です。  
このコーナーでは人材育成を推進するにあたり、指導者の皆さまにきつと役にたつ「ヒント」を掲載していきます。  
このコーナーが皆さまの指導者としての能力向上に役立ち、職場でのより良い人材育成につながることを願っております。

### ◆ 指導手法の違いと忍耐力の差 ～昔と今～

#### 昔の指導

昔の教育は「やらす・強制・罰を与える」が主流でした。これは科学的に根拠がない手法です。

#### 昭和 昭和教育のうち、非科学的な教育方法

- ・漫画「巨人の星」型の精神論
- ・強制的
- ・罰を与える、連帯責任
- ・根性・辛抱



例えば、学生時代(20年以上前)の部活動では理不尽な指導であっても、歯を食いしばって頑張っていたのではありませんか？その時は、指導方法に疑問は抱かず自然と取り組んでいたのではないのでしょうか？その結果、忍耐力が身に付いたことは事実です。

#### 今の指導

今の教育は、「理論的な指導」「内発的動機付けとなるように支援」「学習者が自ら考え行動する」など、科学的に証明された手法です。

#### 令和 科学的に証明された教育手法

- ・ロジック(論理・道筋・意味)
- ・+(プラス)のモチベーション
- ・内発的動機
- ・主体的
- ・行動の本質を理解



良い結果となる学習を受けてきていますが、忍耐力については、個々に差があることも事実です。

### ◆ ポイント ～ 指導する上で心掛けておくこと ～

- ・指導の主役は指導を受ける側であり、指導者はサポーターである。
- ・指導者は成長を見守り、成長を焦らすものではない。
- ・精神論や根性論の指導では、効率的に人材を育成できない。
- ・成功体験が人材育成により良い効果を生む。



指導を受けた側が、自分自身の考えによって、「根性」や「歯を食いしばる」ことを内発的に選択する場合がありますが、「根性」などを外発的に押し付けて教えることは、決して良いことではありません。

#### 担当者 N のよもやま話

私は先輩方から愛のある、いわゆる昭和型のご指導を受け、今思えば「歯を食いしばる」ことを内発的に選択していました。その結果、寝ている時に歯ぎしりをするようになり、毎日夢の中でも歯を食いしばっていたことは言うまでもありません。

## 過去に学ぶ 明日に備えて

Vol. 2

## 今回のテーマは「傷病者搬出」(救急部救急課)

このコーナーでは、「安全文化の醸成と安全管理の徹底」を図ることを目的に、消火・救助・救急など過去の負傷事例を振り返り、事例からの学びについて紹介していきます。ここで紹介する内容が、皆さんの日々の活動に役立ち、プロフェッショナルとしての安全意識をさらに高める一助となることを願っています。

今回は、傷病者搬出による傷病者及び職員負傷事故への更なる対策強化を図るきっかけとなった事例を紹介します。

### 事例紹介

救急現場活動中、傷病者を救急隊員2名が両脇から介助しながら、狭隘かつ急勾配の階段を降りていました。階段の途中で傷病者が急に前傾姿勢となり、支えることができず、3名ともに転落しました。負傷程度については、傷病者が左前額部の打撲挫創、隊員2名が腰背部の打撲でした。



#### 発生原因

- ・安全管理より効率的な活動を優先した(隊員1人は資器材収容のため1階へ先行していた)
- ・搬送資器材の不使用
- ・手すりを握っていない
- ・傷病者の前側に隊員がいない
- ・傷病者の予想外の動きに備えていなかった

#### 発生後の対策

- ・現場のリスクを事前に小隊内で共有し、共通認識を持って活動をする
- ・安全管理を優先して3人で対応する
- ・搬送資器材を使用して搬出する
- ・手すり等を利用する
- ・傷病者が意識消失して前傾したり、暴れ出すことも考慮した位置に隊員を配置する

### 過去からの学び

過去にも傷病者搬出中に、傷病者や隊員が負傷した事案があったことから、搬出方法の習熟度を向上させるために、様々な場面で多様な資器材を用いた搬出方法を本部救急が動画で紹介しています。ここでは、その一部を紹介します。

#### 布担架とベルトを使用

胸ベルトが前傾を抑え、足ベルトは傷病者の持ち手としても利用できるもので、安心感を与えます。



#### 屈折担架を使用



### さいごに

当局では「QuickStudy」で過去事例を学び、「インシデントレポート」で自身の活動を振り返りながら発生原因や改善策を考える機会を設けることで、危機管理能力の向上を図っています。安全管理は1人で行うものではなく、全員が当事者であるという意識を持って行うことで、多角的にアクシデントを防ぐことができます。活動方針と危険因子の情報共有を「ブリーフィング」で行い、事故発生防止に努めましょう。

# ケイボウタイムズ

～警防課の「いま」を伝える～

## 第13回 クルマのセルフメンテナンス

警防課（機械器具開発）

災害現場での活動を支える「警防部 警防課」。「ケイボウタイムズ」では、毎号、警防課の各担当による「この時期だから伝えたい」旬なネタを掲載するほか、警防課が取り組む施策や事業についてお伝えします。

### はじめに

災いは、忘れたころにやってくる……車両に関するトラブルにも、そんなところがあると思います。今回は、車に関する様々なトラブルへの対処法を、機械器具開発担当が発信してきたメールマガジン「きかいキツカイ連絡簿」からご紹介します。

### 様々な不具合への対処法

#### ◆流量計の表示がおかしい

棒にウエスを巻き付け、揮発性の溶剤

#### ◆電圧計・電流計

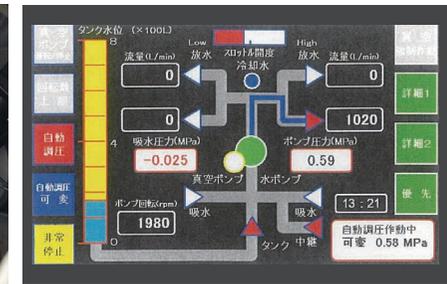
エンジンを停止している際の電圧計は、バッテリーの電圧を示します。このとき電流計がマイナス側に振れていれば、ヘッドライトなど電気負荷の切り忘れが考えられます。エンジンが始動している時の電圧計は、オルタネーターの発電電圧を示しており、エンジン停止時と同じか、僅かに高めの値を示します。エンジン回転数を上げてヘッドライトなどの電気負荷がかかっている時、電流計がマイナスに振れていれば、オルタネーターの故障が考えられます。逆に大きくプラスに振れていれば、バッテリーの充電が足りないことが考えられます。

### タイヤ交換の手順とポイント

救急車や所轄指揮車など、常時スペアタイヤを積載している車両なら、自前で交換できます。いざという時のために、手順を確認しておきましょう。

- ①平らで安全な場所に停車します。砂利やグレーチングの上は危険なため避けましょう。
- ②前タイヤを交換する際は、後タイヤの一つに輪止めをします。後タイヤの交換時は、前タイヤに輪止めをします。

（シンナーやメタノール等）を含ませて、吐水口側から差し込み、検出部の内面を掃除すると、油分が取れて不具合が解消することがあります。2年に1回のポンプ点検でも実施していますので、作業の手順をご確認ください。



流量計の不具合とその対処法

大阪市の小型タンク車の多くは、ポンプ統合操作盤に流量計の表示も含まれています。検出部は各放水口のすぐ奥に設けられています。

#### ◆メインスイッチ

昔から親しまれた、青く光るメインスイッチに代わって、メーカー標準のバッテリースイッチ（メインスイッチ）がついた車両が増えていきます。

ST車等では、インストルメントパネルの中央にカバーがついた形で配置されていますので、入れ忘れや切り忘れに注意してください。

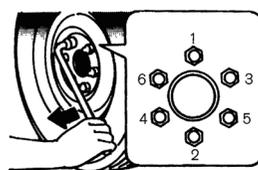


メインスイッチ

#### ◆ブレーキ液が減っている

ブレーキパッドの摩耗が進むと液面が下がりますが、ブレーキ回路から漏れている可能性もあります。いきなりブレーキ液を追加することはせず、まずは専門の整備工場に点検を依頼することをお勧めします。

- ③ジャッキをかけてよい場所を、取扱説明書で確認します。間違えると車体を損傷したり、車両が転倒する恐れがあります。
- ④ジャッキを少し上げ、車重がジャッキにかかってタイヤが浮き上がりきる直前に、ホイールナットをわずかに緩めます。そうすることで、タイヤが空回りすることなく緩めることができます。
- ⑤さらにジャッキを上げ、タイヤが完全に浮いたら、ホイールナットを緩めてタイヤを外します。
- ⑥できるだけハブボルトを引きずらないように留意して、新たなタイヤを入れます。この時、つま先に乗せると入れやすくなります。
- ⑦ホイールナットを手で回して締め、ナットの球面部分（ナットのヘッド部）がホイールに均一に当たっていることを確認します。



ナット締め付け順序



シャーシ下部の強固な部分にジャッキを当てる。

ジャッキアップ箇所

### おわりに

ちょっとしたコツで、自動車のメンテナンスが楽しくなり、経費節減にも貢献できます。皆さんで教え合いながら、ぜひチャレンジしてみてください。



ジャッキアップの準備

ジャッキアップをするとタイヤが接地しないため、車両が動いて事故につながる恐れがあるため、作業場所の状況には十分留意しましょう。

おりやな、火事起こしてわかった。厨房、定期的に掃除するわ!消火器もさっき買ってきたで!」幸い、死傷者は出ず、ぼやで済みました。その後、店長は火災を起こさずに営業を続けています。

警防担当が人命救助のプロであるように、我々予防担当も火災予防のプロとして、市民の生命・身体・財産を守るため、立入検査や届出、相談窓口の機会を通して、日々、建物関係者に指導を行っています。

私の消防人生は、いま、予防担当として、新たな道を歩み始めています。皆さんのターニングポイントはどこでしたか?仕事で言えば、昇任や人事異動、上司、先輩との出会い、きっかけは様々です。人によっては何の前振りもなく、予期せぬ部署へ人事異動。そのときは落ち込むかも知れませんが、それは裏を返せばターニングポイントにもなります。つまり、大きなチャンスです。そうとは気付いていながら、人間は、新たな一歩を踏み出すことを恐れます。その理由は、新しいことに挑戦するよりも、慣れたことを継続するほうが楽だからではないでしょうか。正直、私も予防担当に配属されたばかりの頃は、右も左もわからず、たくさん悔しい思いをしました。しかし、今では予防担当という仕事に救われ、消防職員として「私の生きる術(すべ)」となりました。今まで考えもしなかったことに、何かのきっかけで出逢い、その後の人生が大きく変わる……みな、人生を歩んでいれば、どこかのタイミングで、そのときは訪れます。

私を含め、皆さんの次なるターニングポイントの先に、新しい未来が待っています。踏み出しましょう、新たな一歩を。

## 宮本主任にインタビュー!

**Q1** このテーマを取り上げた理由をお聞かせください。

**A1** ありきたりではない、自分にしかできない発表にしようと考えてこのテーマにしました。

**Q2** 警防担当から予防担当になったときは、どのような気持ちでしたか?

**A2** 正直、悔しい気持ちでいっぱいでしたが、当時(北消防署)の予防担当の方々にも温かく受け入れてもらったことや、活躍する同期の存在が心の支えになりました。

**Q3** 予防担当として、どのようなときにやりがいを感じますか?

**A3** やはり、指導困難な関係者に対して是正指導を行い、消防法違反が是正されたときです。相手と協議を繰り返した結果、違反が是正されたときに、特にやりがいを感じます。

**Q4** 予防担当をはじめ、新しい部署につく方に向けてアドバイスをお願いします。

**A4** 最初は慣れない業務で苦労すると思いますが、自分自身の可能性が広がり、新たな世界が見えてくると信じて、業務に邁進してください。

**Q5** 最後に、優秀賞を受賞されて一言お願いします。

**A5** 正直、この内容でここまで来れるとは思っていませんでした。あの舞台に立たなければ味わえないこの経験を、後輩に伝えていきたいと思います。

## 第72回 消防職員意見発表会

令和7年2月13日、西消防署講堂において「第72回 消防職員意見発表会」が開催されました。ここでは、優秀賞を受賞した、宮本一喜 消防司令補(中央消防署 予防担当)の発表内容を紹介しします。

### 優秀賞

#### 分岐点“ターニングポイント”



中央消防署 予防担当 宮本 一喜



皆さんは「消防士」と聞いて、どんな仕事を想像しますか?先日、息子が通う保育園の先生と、このような会話がありました。「お父さん消防士なん?レスキュー?」「違います」「じゃあ火い消す人?それとも救急車に乗る人?」「違います」「え?消防士なんちゃうの?」「消防士なんですけど……予防担当ってゆって、火災予防のために立入検査に

行く部署なんです!」「そんな部署あるんや!知らなかったわ!」

皆さんは、予防担当の存在、また、予防担当がどのような業務を行っているかご存知でしょうか?我々、予防担当は火災の発生を未然に防ぐことを業務としています。消防のほとんどの仕事が119番通報を受けてから動くのに対し、予防担当は通報を受ける前、むしろ、その通報を減らすために働いていると言っても過言ではありません。

そんな予防担当ですが、消防職員の中では、「せっかく消防士になったのに、現場に行かれへんのはな〜!」「平日毎日仕事やし、給料下がるやん!」と否定的な意見が多く並びます。たしかに、現場に出動しないため、特に危険な活動をした際の手当はありませんし、24時間働いて、翌日は非番、「これぞ消防士!」という勤務形態でもないせいか、自ら希望する人はほとんどいません。

しかし、私は「予防担当」という仕事に出逢い、消防人生が大きく変わりました。人事異動のきっかけは、訓練中に古傷を悪化させてしまったことでした。ドクターストップを告げられ、途方に暮れていた私の目に映ったのは、予防担当で輝きを放つ同期・先輩の姿でした。消火隊として災害現場に備え、訓練を重ねていた日々が一転、立入検査での是正指導、消防法令に基づき、なぜ違反なのか、どうすれば違反ではなくなるのかを、建物関係者に指導する毎日へと様変わりしました。そう、私にとってのターニングポイントでした。

予防担当として走り出し、はや5年が経ちました。その中で、とある飲食店の店長とのやりとりが、強く印象に残っています。「厨房、めっちゃ油ついてるんで、今すぐ掃除せんと、火事になりますよ!置いてある消火器もかなり古いんで、いざというとき初期消火で使えませんよ!」と指導すると、「うち店やって30年、火事起こしたことないし、大丈夫大丈夫!」と、火災予防にまるで無頓着。あるうことか、翌日、厨房で火災が発生。再び検査へ行くと、店長はこう言いました。「あなたの言うと



様々な事案から災害活動を振り返る

## 東方面隊

### 即消

#### ■はじめに

今回は密集地域にある木造2階建一般住宅で発生した3方向に延焼危険のある面火災において、速やかに放水体制を整え、救助隊と連携し屋内進入し人命検索を実施したのち、1線1口で早期に火災を制圧したST小隊の活動について紹介する。

#### ■災害概要

覚知日時	19時09分
令和6年8月某日	19時10分
第1出場	19時13分
第2出場(警防本部判断)	19時13分
現場到着(直近隊)	19時13分
放水開始(直近隊)	19時14分
鎮圧時刻	19時22分

#### ■活動内容

「火災指令、1管内…」火災指令を受信した小隊長は指令内容より、自隊が直近消火隊であることを確認した。現場到着後、小隊長は隊員に対し手ひろめでのホース延長を指示して、折りたたみ式はしご及びとび口を搬送し燃焼建物玄関に到着した。

なお、本火災は密集地域で発生

鎮火時刻 21時03分

出火建物…木造カラーベスト葺  
 サイディングボード張  
 2階建一般住宅(建60㎡延120㎡)のうち、  
 1階25㎡焼損。  
 負傷者…なし  
 出場隊…消防車両等27台

した火災であったため、先着救助隊の黒煙ありの即報により第2出場が指令されている。

燃焼建物玄関上方の2階ベランダから黒煙が噴出しており、施錠されていた玄関扉を救助隊がエンジンカッターで開放中であった。その間に隣接建物の状況を確認し指揮本部に「発生場所は指令書のとおり、延焼危険方向は南を除く3方向」と無線報告した。

小隊長は内部の逃げ遅れ及び燃焼状況の確認を優先することを決定し、隊員2名に対し玄関扉開放後、救助隊と連携し屋内進入して検索及び消火にあたる活動方針を周知し、救助隊の小隊長に対し救助隊と連携し室内進入する旨を伝えた。

ホースの通水状況、進入準備完了を確認後、中継隊の小隊長から

「背面警戒筒先に回る」と口頭報告を受けるとともに、自隊の機関員から「中継受水完了」の無線報告を受けた。指揮本部に「玄関扉施錠、現在救助隊がエンジンカッターを使用して玄関扉開放中、開放すれば内部進入し消火にあたる」と無線報告したのち、空気呼吸器の面体を着装し救助隊に続き玄関から建物内に進入した。玄関扉を開放した際に、内部より黒煙の噴出と強い熱気があったため低い姿勢で屋内進入。中性帯を確認し、放水はせず室内の中性帯を崩すことなく人命検索を優先しながら熱気のなか廊下を進むと、居室の天井及び床面に火炎を確認した。救助隊と居室内部を検索して付近に要救助者がいないことを確認。指揮本部からの「警戒筒先配備完了」の無線連絡を受けたの

ち、主火力へのストレート放水及びスプレー放水により消火作業を実施した。

主火力の制圧と並行して、早期にとび口を活用し天井及び側壁を破壊し延焼状況を確認するとともに、掃き出し窓を開放し排煙と脱出口の確保を実施した。それらの活動により、燃焼拡大期にも関わらず、的確に燃焼状況を確認しつつ救助隊と連携して人命検索を行い、先着消火隊のみで即消したことで、被害を最小限に抑えることができた。

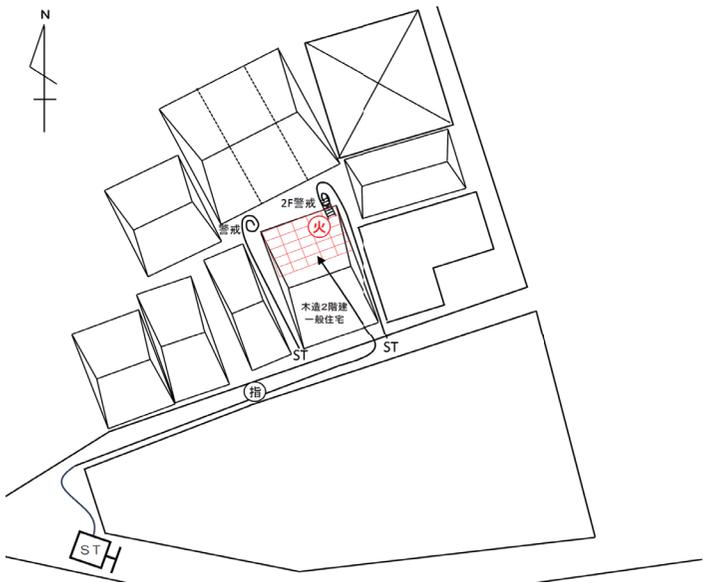
また、中継隊は走行経路上に一般車両が停車しており、消火栓までの通路が狭隘となり消火栓部署が困難な状況であった。その状況下で直近隊及び中継隊の機関員は臨機に対応し、協力してST車から消火栓に65ミリホースを逆延長

することで水源を確保した。同時に中継隊は直近隊にポンプ相掛りを実施している。

乗り組み隊員2名は20歳前後の経験の少ない職員であったが、50代の現場経験豊富な小隊長の適切な導きにより小隊として効果的な活動が実施できている。経験の浅い隊員にとって、自身の活動により被害を最小限に抑えたことは自信



階段付近の焼き状況



となり今後につながる貴重な経験であったことは言うまでもない。

#### ■おわりに

本火災は、焼損面積が少なく指令から鎮火までの活動は短時間ではあったが、発生場所は密集地域であり、かつ道路狭隘で古い住宅が多く存在する地域であったことから、

ひとたび燃焼が拡大すれば被害は甚大なものになったと考えられる。

1階部分の焼き状況は上階へ続く階段付近にも及んでおり、消火活動が遅れていれば階段部分を延焼経路として上階へ燃焼拡大した可能性は否定できない。

そんな中での防ぎよ活動は、一見容易に行われたように思われるが、延焼危険方向を確認し指揮本部に即報、救助隊と連携し活動方針を決定後、熱気と濃煙のなか屋内進入し安易な放水を実施することなく、検索実施後に、背面の警戒筒先配備を確認したのち燃焼実体に対し有効な放水を実施している。他の火災現場では破壊を躊躇し延焼を拡大させてしまふことも見受けられる中、本事業では小隊長が携行したとび口を活用し憶することなく適確に判断し延焼状況の確認のための破壊を実施している。このように緊張感のある現場において、無駄のない効果的な活動が成し遂げられたのは、消防署全体で日々取り組んでいる訓練成果の賜物であると考えられる。実災害をイメージし、繰り返し訓練を実施してきたことが今回の冷静沈着な判断、活動につながったものであり、消火隊の二本となる活動である。

### 育児休業を取得した期間は？

次女が産まれてからの1か月間（令和6年5月20日～6月19日）です。この期間にした理由は、先述のとおり妻が療養に専念できる期間を作りたかったこと、そして収入が極力減らないようにすることの2つがあります。

育児休業期間中は育児休業手当金を受給できますが、その額は勤務時の手取りの8割程度。今後の子育てにかかるお金を考えると、あまり収入を減らしたくありませんでした。また、1か月以下の育児休業であれば期末勤労手当が減額されない、というのも大きかったです。

### 育児休業中の大変なことは？

特別大変だと思うことはありませんでしたが、強いて言うなら各種手続きでしょうか。職場への提出書類や役所への届出等、対応が遅くなると各種手当の受給が遅れるおそれもあるので、一通りの手続きが終わるまでは落ち着くことができませんでした。

子どもが産まれる前にどのような届出や書類が必要か、整理しておくことをお勧めします。

# イクキュー



子どもの出生数が年々減少している昨今、子育て世代が安心して子どもを持てる環境づくりが課題となっています。令和7年4月以降、28日間までの育児休業であれば、手取りの10割程度が給付金として支給されるようになりました。

本コーナーでは、これから子どもが産まれる予定のある職員が育児休業の取得を考えるきっかけとなるよう、実際に育児休業を取得した職員の声を紹介します。

### 育児休業を取得してよかったことは？

妻にとっても感謝してもらえたこと、そして子どもと時間を気にせず遊べたことが何よりもよかったです。また、妻と毎日一緒に生活したことで、普段落ち着いて話せない育児計画等について腰を据えて話せ、とても充実した休業期間を過ごせました。

長女の育児中はずっとバタバタしていて、トラブル等に行き当たりばったりの対応になっていた記憶があります…。



### 育児休業を取得して、同僚や仕事に対して思うことは？

育児休業に入る前は、可能な限り業務を整理し、スムーズな申し送りができるように努めましたが、どうしても一人抜けた穴は同じ担当の方々が埋めることになり、負担をかけてしまいます。それにも関わらず、同僚の方々が快く送り出してくれたことに感謝の気持ちを持つとともに、復帰後は仕事に対して今まで以上に前向きに考え、向き合えるようになりました。

このようになれたのは、職場への恩返しという意味だけではなく、一定期間仕事から距離を置いたことで、自分自身の仕事との向き合い方を見つめなおすことができたことも大きいと思います。この期間で、自分にとって仕事とは生活費を稼ぐ手段だけではなく、自身の能力の発揮や人の役に立つといった自己実現の手段でもある、と気づくことができました。

私は育児休業を取得したことにより、家庭・仕事の両方に良い影響がありました。これから子どもが産まれる予定のある職員の皆さん、是非、育児休業の取得を検討してみてください。

今月が初回となりました「イクキュー」、いかがでしたか？これから育児休業を取得される方、育児休業を取得される方の同僚の方、皆さんが育児休業取得について理解を深め、助け合うことで取得率がさらに向上していくといいですね。

今回はどんな「イクキュー」についてのお話を伺えるのでしょうか。楽しみに！

### 今回お話しいただくのは…

人事課人事給与制度担当の弓場と申します。我が家は4人家族で、面倒見がいいしっかり者の長女（3歳）と好奇心旺盛でお転婆な次女（0歳）がいます。2人の子育ては毎日がてんやわんやですが、妻と協力しながら楽しい日々を過ごしています。



### 育児休業取得を決めた理由は？

私が初めて育児休業を取得したのは、次女が生まれた時でした。長女が産まれた時は、男性の育児休業取得が社会全体ではまだ一般的ではなく、私自身も女性が利用するための制度だと思い込んでいました。そのように思っていた私ですが、次女が産まれるとわかった頃には社会全体で男性の育児休業取得を推進する動きがあり、大阪市消防局内でも育児休業を取得した男性職員がいるとの話を聞いていたので、自分も取得したいと思うようになりました。

それに加えて、出産に伴う身体へのダメージが交通事故にも例えられるほど大きいものと知り、産後の妻が療養できるよう支えたいという気持ちも大きかったです。さらに長女が産まれた時は妻が実家へ帰省し、妻の両親の協力を得ながらの育児でしたが、次女が産まれる時は長期の帰省ができないという事情もあったので、育児休業を取得することを決めました。

### 育児休業中に取り組んだことは？

育児休業を取得させていただいたからには全力で家事・育児に取り組みました。そうすることで妻の負担が減り、妻に喜んでもらえましたし、子ども達との思い出も作ることができました。長女の生後1か月頃の育児は妻が帰省していてあまり携われなかったのが、改めて赤ちゃんってこんなに軽いのか、長女もこんなに小さかったのか等、世話をする中でとても感慨深いものでした。

